

持続可能な社会の担い手を育む「ESD とユネスコスクール」の実践

恵庭市立松恵小学校 校長 加藤 敏 幸

担当者 佐々木 めぐみ

1 本校のESDの特徴 ～ ユネスコショップを中心に

本校は、平成23年にユネスコスクールに登録された。当時、活動としては、「川の学習」及び「緑の少年団活動」による環境教育、「書き損じはがき」、「リングプル・ペットボトルキャップ」等を回収し寄付する活動を行っていた。全校児童100名弱の学校では一番に力を入れていた回収活動もできることは限られていた。

その後ユネスコの活動について「少人数でも貢献できるもの」「ユネスコへの寄付活動で子どもたちに感動を与える事ができるもの」はないかと全職員でプランを練り直し、松恵小学校で取り込んでいる「食育」を中心にした農園活動に目を向け、全校で育てている農作物を活用した「ユネスコショップ」のアイデアにたどり着いた。

本校では全学年が、子どもたち各自が選んだり学年でテーマを決めたりして農作物（野菜等）を育て、秋にそれらをつかって調理し、全校で収穫を祝いながら食べる「収穫祭」を行っている。野菜の収量が多いため「収穫際」だけでは食べきれない野菜も出てくる。子どもたちが自分の家に持って帰る時もあるが、それでも余るほど収穫でき、いわゆる「もったいない」という状況であった。そこでこれらを活かし募金に役立てるよう考えたのが「ユネスコショップ」である。

「ユネスコショップ」とは、自分たちで育てた野菜を「売って」そのお金を「募金」という活動で、そのお店の名前をずばり「ユネスコショップ」とした。募金活動を広げるため、地域の方や保護者に募金をしてもらったお礼に子どもたちのつくった野菜を持って行ってもらうことが本来の趣旨ではあるが、子どもたちは自分の育てた野菜が「どれでも一袋50円」で売れることに大喜びし、熱心にこの取り組みにかかわることとなった。

残ってしまう野菜たちが「もったいない」ということでスタートした「ユネスコショップ」であるが、当初はESDを意識して始めたことではなかった。しかし、あらためて振り返るとこの活動はESDの趣旨に沿ったものにもなっている。今では本校の教育活動の柱になっており、地域や保護者の方々にも浸透している。何度かテレビや新聞などでも紹介され、そのたびに学校を訪れ野菜を買って（募金して）くれる方が多くなる状況である。地域・学校・保護者そして募金先のそれぞれにとって有益なものとなっている。環境にも優しい活動として今後も継続して取り組んでいきたい。



2 活動全体計画

ESDとユネスコスクールの研究テーマとの共通項

【共通テーマ】

- ① 環境教育 → 農園活動・川の学習・緑の少年団活動・植樹活動・林間学校
 - ② 国際理解教育 → 国際理解・寺子屋運動（書き損じ葉書）・ユネスコ憲章
 - ③ 世界遺産・地域の文化財に関する教育
→ 地域理解（わたしたちのまち・むかしの暮らし）
- これまで実践してきた各教科や領域等で取り組んできた内容の共通テーマを基に洗い出し、補則・追加を加え「松恵小ESD・ユネスコスクール」スタイルを確立。

ESD

- ① 人格の発展や自立心・判断力・責任感などの人間性を育む
- ② 他人との人間性や社会との関係性、自然環境との関係性を認識し「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育む
→ 実現させるために、環境教育・国際理解教育の持続可能な発展に関わる諸問題に対応する個別の分野にとどまらず、環境・経済・社会・文化の各側面から小学校各教科を横断的かつ総合的な取り組みを進める。

松恵小のねらうもの

- ESD・ユネスコスクールを通して松恵っ子の一人ひとりに、「より良い未来を創り出すために、学び・考え・行動しよう」という夢や目標が生まれ、学びの中に自信や誇りをもつ松恵っ子を育てる。
- 人権・環境・国際理解といった、従来から重視してきた内容を「持続可能なより良い未来づくり」という視点からとらえ直し、横断的・総合的に関連づける事で松恵小の教育をより充実させていく。

3 活動事例

① ユネスコショップ

今年度は、子どもたちが育てた野菜等を販売して（募金してもらい）、22,964円を恵庭ユネスコ協会に寄付。2年生が代表して手渡した。

② 種まき集会

3・4・5・6年生は総合的な学習の時間に、1・2年生は生活科の時間に自分たちの育てる野菜や今年の農園活動のテーマや目標、学習における課題などを決めたり見つけ出したりする。苗や種を植える5月には「種まき集会」でそれらを発表する。2年生は「ユネスコ憲章」を切り口に発表を行うなど、「ユネスコショップ」運営の中心となる学年としての意識がうかがわれた。



③環境学習「川の学習」

例年8月末に恵庭市の漁川において、環境学習・川の観察・川の清掃等を「流域生態研究所」の協力を得て実施。H30年度は、残念ながら大雨による増水に阻まれ実施できなかった。来年度の天候に期待したい。

④自然体験学習「林間学校」

H29年度は秋に実施し、色づく木の葉や蔦の美しさを間近に見ながらハイキングを行った。日頃から親しみのある調理も野外で行うのはひと味違い、縦割り班で協力して作った焼きうどんに舌鼓を打っていた。今年度は冬期の実施。スノーシューを履き雪の中を動物の足跡探しなど、静けさの中を歩く体験をする。全校児童で自然の豊かさに感謝しながら行う「松恵ならでは」の活動としてしっかり根付いている。



4 成果と課題

「もったいない」でスタートした取り組みがユネスコショップ開設となり、やがて世界とつながる活動となった。一粒の種や一株の苗から実ができ、やがてそれは姿を変え世界中の子どもの笑顔につながる。自分たちの身近な活動が世界の喜びにつながることを意識できる活動が松恵小にはたくさんある。さらには、学年の枠を越え縦割り班での農園活動も加わり、マルチシートの準備や草取りなどの技術も上学年から下学年へと受け継がれていく。これからも、そんな「松恵ならでは」の活動を続けていきたい。

